

### 3 シンプレックス法

● 3-1 : 端点解から新たな端点解を得る方法

例 3-1 次の LP 問題を考えよう.

$$\begin{aligned} \text{Minimize} \quad & z = 2x_1 - x_2 + x_3 - 5x_4 + 22x_5 \\ \text{Subject to} \quad & x_1 - 2x_4 + x_5 = 6 \\ & x_2 + x_4 - 4x_5 = 3 \\ & x_3 + 3x_4 + 2x_5 = 10 \\ & x_1, x_2, x_3, x_4, x_5 \geq 0 \end{aligned}$$

まず,  $x_1, x_2, x_3$  を基底変数とすれば,  $x_0 = {}^t(6, 3, 10, 0, 0)$  は実行可能基底解である. このとき, 目的関数  $z$  の値は

$$z = 2 \cdot 6 - 3 + 10 - 5 \cdot 0 + 22 \cdot 0 = 19$$

である. では, 別の実行可能基底解で目的関数の値を小さくできるか調べてみよう. 制約式を変形すれば

$$\begin{aligned} x_1 - 2x_4 + x_5 = 6 & \iff x_1 = 6 + 2x_4 - x_5 \\ x_2 + x_4 - 4x_5 = 3 & \iff x_2 = 3 - x_4 + 4x_5 \\ x_3 + 3x_4 + 2x_5 = 10 & \iff x_3 = 10 - 3x_4 - 2x_5 \end{aligned}$$

であるから, これらを  $z$  に代入して

$$\begin{aligned} z &= 2(6 + 2x_4 - x_5) - (3 - x_4 + 4x_5) + (10 - 3x_4 - 2x_5) - 5x_4 + 22x_5 \\ &= 19 - 3x_4 + 14x_5 \end{aligned}$$

である. これより,  $x_4$  を 1 増やせば  $z$  は 3 減少し,  $x_5$  を 1 増やせば  $z$  は 14 増加する.  $z$  の値をなるべく小さくしたいので,  $x_4$  を含む実行可能基底解を求めてみよう.

与えられた制約条件より

$$p_1 := \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad p_2 := \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad p_3 := \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad p_4 := \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad p_5 := \begin{pmatrix} 1 \\ -4 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad b = \begin{pmatrix} 6 \\ 3 \\ 10 \end{pmatrix}$$

とおき,  $A := (p_1 \ p_2 \ p_3 \ p_4 \ p_5)$  とおくことにすれば,  $x_0$  は連立方程式  $Ax = b$  の解なので

$$6p_1 + 3p_2 + 10p_3 = b$$

を満たす. いま,  $p_4$  を含む実行可能基底解を求めたいので  $p_4$  を  $p_1, p_2, p_3$  の一次結合で表してみると  $p_4 = -2p_1 + p_2 + 3p_3$  である. このとき,  $\varepsilon$  を定数として

$$\begin{aligned} 6p_1 + 3p_2 + 10p_3 &= b \\ \iff 6p_1 + 3p_2 + 10p_3 + \varepsilon p_4 - \varepsilon p_4 &= b \\ \iff 6p_1 + 3p_2 + 10p_3 + \varepsilon p_4 - \varepsilon(-2p_1 + p_2 + 3p_3) &= b \\ \iff (6 + 2\varepsilon)p_1 + (3 - \varepsilon)p_2 + (10 - 3\varepsilon)p_3 + \varepsilon p_4 &= b \end{aligned}$$

- もし,  $p_1$  を消去すれば,  $\varepsilon = -3$  であり,  ${}^t(0 \ 6 \ 19 \ -3 \ 0)$  は実行可能解ではないので不適.
- もし,  $p_2$  を消去すれば,  $\varepsilon = 3$  であり,  ${}^t(12 \ 0 \ 1 \ -3 \ 0)$  は実行可能基底解である.
- もし,  $p_3$  を消去すれば,  $\varepsilon = \frac{10}{3}$  であり,  ${}^t(\frac{38}{3} \ -\frac{1}{3} \ 0 \ \frac{10}{3} \ 0)$  は実行可能解ではないので不適.

以上より,  $p_2$  を消去して新たな実行可能基底解  ${}^t(12 \ 0 \ 1 \ -3 \ 0)$  を得たが, このときの  $z$  の値は

$$z = 2 \cdot 12 + 1 - 5 \cdot 3 = 10$$

でより小さい値とできた.

レポート 3-1 LP 問題

$$\begin{aligned} \text{Minimize} \quad & z = x_2 - 3x_3 + 2x_5 \\ \text{Subject to} \quad & x_1 + 3x_2 - x_3 + 2x_5 = 7 \\ & -2x_2 + 4x_3 + x_4 = 12 \\ & -4x_2 + 3x_3 + 8x_5 + x_6 = 10 \\ & x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 \geq 0 \end{aligned}$$

について、制約条件を与える連立一次方程式の係数行列  $A$  を求めよ。また、 $A = (\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2 \ \mathbf{p}_3 \ \mathbf{p}_4 \ \mathbf{p}_5 \ \mathbf{p}_6)$  とおくと、 $A$  の列ベクトル  $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \dots, \mathbf{p}_6$  のうち一次独立になるものの最大個数が 3 であることを示せ。また、 $\mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3, \mathbf{p}_5$  を  $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_4, \mathbf{p}_6$  の一次結合で表せ。

● 3-2 : 最適解であるかの判定

LP 問題の実行可能解空間の全体  $K$  が有界ならば **定理 2.9** によって  $K$  の端点にあり、それは **定理 2.13** によって実行可能基底解である。そこで、新たに得た実行可能基底解が最適解かどうかの判定する方法について考察しよう。

**定義 3.1.** 標準化された LP 問題の実行可能基底解  $x_0$  の 0 でない成分が、制約条件の等式の数  $m$  となるときに  $x_0$  は **非退化** であるという。

以下、標準化された LP 問題

$$\begin{aligned} \text{Minimize} \quad & z = {}^t \mathbf{c} \mathbf{x} \\ \text{Subject to} \quad & A \mathbf{x} = \mathbf{b} \\ & \mathbf{x} \geq \mathbf{0} \end{aligned}$$

について、 $K \neq \emptyset$  であって、実行可能基底解はすべて非退化であると仮定しよう。このとき、 $A$  は  $m \times n$  行列で  $\text{rank}(A) = m$  であり、 $A = (\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2 \ \dots \ \mathbf{p}_n)$  のはじめの  $m$  個の列ベクトルは一次独立である。これの実行可能基底解

$$x_0 = {}^t (x_{10} \ \dots \ x_{m0} \ 0 \ \dots \ 0) \in K, \quad x_{i0} > 0, \quad i = 1, 2, \dots, m$$

が与えられていたとする。また、次のように設定しておく。

$$\begin{aligned} z_0 &:= c_1 x_{10} + c_2 x_{20} + \dots + c_m x_{m0} \\ \mathbf{b} &:= x_{10} \mathbf{p}_1 + x_{20} \mathbf{p}_2 + \dots + x_{m0} \mathbf{p}_m \\ \mathbf{p}_j &:= x_{1j} \mathbf{p}_1 + x_{2j} \mathbf{p}_2 + \dots + x_{mj} \mathbf{p}_m \quad (j = 1, 2, \dots, n) \\ z_j &:= c_1 x_{1j} + c_2 x_{2j} + \dots + c_m x_{mj} \quad (j = 1, 2, \dots, n) \end{aligned}$$

**命題 3.2.** ある  $j$  について、 $z_j - c_j > 0$  であれば、目的関数  $z$  の値を  $z_0$  より小さくする別の実行可能基底解が存在する。

**証明.**  $\varepsilon \neq 0$  をある定数とする。

$$\mathbf{b} - \varepsilon \mathbf{p}_j = (x_{10} - \varepsilon x_{1j}) \mathbf{p}_1 + (x_{20} - \varepsilon x_{2j}) \mathbf{p}_2 + \dots + (x_{m0} - \varepsilon x_{mj}) \mathbf{p}_m \quad (*)$$

であり、

$$z_0 - \varepsilon z_j = (x_{10} - \varepsilon x_{1j}) c_1 + (x_{20} - \varepsilon x_{2j}) c_2 + \dots + (x_{m0} - \varepsilon x_{mj}) c_m$$

となる。これの両辺に  $\varepsilon c_j$  を加えると

$$z_0 + \varepsilon(c_j - z_j) = (x_{10} - \varepsilon x_{1j}) c_1 + (x_{20} - \varepsilon x_{2j}) c_2 + \dots + (x_{m0} - \varepsilon x_{mj}) c_m + \varepsilon c_j$$

ここで、(\*) における係数について

$$x_{10} - \varepsilon x_{1j} \geq 0, \quad x_{20} - \varepsilon x_{2j} \geq 0, \quad x_{m0} - \varepsilon x_{mj} \geq 0, \quad \varepsilon > 0$$

であれば, 新たな実行可能解を得たことになる. このときの  $z$  の値は

$$z = z_0 + \varepsilon(c_j - z_j) < z_0$$

となり, 値を小さくすることができた. 仮定より, 実行可能基底解は非退化なので  $k = 1, 2, \dots, m$  で  $x_{k0} > 0$  だから  $\varepsilon$  を十分小さくすれば  $x_{k0} - \varepsilon x_{kj} \geq 0$  とできる. よって題意を示すことができた.  $\square$

**定理 3.3.** ある実行可能基底解  $x_0 := {}^t(x_{10} \cdots x_{m0} 0 \cdots 0)$  に対して, すべての  $j$  について,  $z_j - c_j \leq 0$  であれば,  $x_0$  は最適解である.

**証明.** 任意に  $y \in K$  をとる. 仮定から  $z_j \leq c_j$  なので

$$z(y) = \sum_{i=1}^n y_i c_i \geq \sum_{i=1}^n y_i z_i = \sum_{i=1}^n y_i \left( \sum_{k=1}^m c_k x_{ki} \right) = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^m y_j x_{ij} c_i$$

である. 一方,

$$b = \sum_{i=1}^n y_i p_i = \sum_{i=1}^n y_i \left( \sum_{k=1}^m x_{ki} p_k \right) = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^m y_j x_{ij} p_i$$

また,  $x_0$  は実行可能基底解であって,  $p_1, \dots, p_m$  が一次独立だから

$$x_{i0} = \sum_{j=1}^m y_j x_{ij} \quad i = 1, 2, \dots, m$$

である. 従って,

$$z(y) \geq \sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^n y_j x_{ij} c_i = \sum_{i=1}^m x_{i0} c_i = z(x_0)$$

を得る. これは,  $x_0$  が最適解であることを示している.  $\square$

● 3-3 : シンプレックス法

ここまで論じてきたことを用いて, 与えられた LP 問題を代数的に解くアルゴリズムは [シンプレックス法](#) または [単体法](#) と呼ばれる.

**例 3-2** はじめの LP 問題を考えよう.

$$\begin{aligned} \text{Minimize} \quad & z = 2x_1 - x_2 + x_3 - 5x_4 + 22x_5 \\ \text{Subject to} \quad & x_1 - 2x_4 + x_5 = 6 \\ & x_2 + x_4 - 4x_5 = 3 \\ & x_3 + 3x_4 + 2x_5 = 10 \\ & x_1, x_2, x_3, x_4, x_5 \geq 0 \end{aligned}$$

初期解として実行可能基底解  $x_0 = {}^t(6 \ 3 \ 10 \ 0 \ 0)$  をとり, ここから最適解を求めていこう. 目的関数より,  $c_1 = 2, c_2 = -1, c_3 = 1, c_4 = -5, c_5 = 22$  である.

$$p_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad p_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad p_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad p_4 = \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad p_5 = \begin{pmatrix} 1 \\ -4 \\ 2 \end{pmatrix}$$

とおく. このとき,  $p_1, p_2, p_3$  を基底として各  $p_j$  を表して,  $z_j$  を計算すると次のようになる.

$$\begin{aligned}
 p_1 &= 1 \cdot p_1 + 0 \cdot p_2 + 0 \cdot p_3 & z_1 &= 1 \cdot 2 + 0 \cdot (-1) + 0 \cdot 1 = 2 \\
 p_2 &= 0 \cdot p_1 + 1 \cdot p_2 + 0 \cdot p_3 & z_2 &= 0 \cdot 2 + 1 \cdot (-1) + 0 \cdot 1 = -1 \\
 p_3 &= 0 \cdot p_1 + 0 \cdot p_2 + 1 \cdot p_3 & z_3 &= 0 \cdot 2 + 0 \cdot (-1) + 1 \cdot 1 = 1 \\
 p_4 &= (-2) \cdot p_1 + 1 \cdot p_2 + 3 \cdot p_3 & z_4 &= (-2) \cdot 2 + 1 \cdot (-1) + 3 \cdot 1 = -2 \\
 p_5 &= 1 \cdot p_1 + (-4) \cdot p_2 + 2 \cdot p_3 & z_5 &= 1 \cdot 2 + (-4) \cdot (-1) + 2 \cdot 1 = 8
 \end{aligned}$$

である。ここで、 $z_i - c_i$  を計算すれば

$$z_1 - c_1 = 0, \quad z_2 - c_2 = 0, \quad z_3 - c_3 = 0, \quad z_4 - c_4 = 3, \quad z_5 - c_5 = -14$$

だから、 $p_4$  を基底に組み込む。また、例 3-1 で計算した  $\varepsilon = \frac{b \text{ の成分}}{p_4 \text{ の成分}}$  の値は  $\varepsilon = -3, 3, \frac{10}{3}$  であった。これらのうち、正の数で最小なものを選べば  $z$  を減少させられるので、基底から  $p_2$  を外す。

今度は、先の操作を  $p_1, p_4, p_3$  を基底として行う。

$$\begin{aligned}
 p_1 &= 1 \cdot p_1 + 0 \cdot p_2 + 0 \cdot p_3 & z_1 &= 1 \cdot 2 + 0 \cdot (-5) + 0 \cdot 1 = 2 \\
 p_2 &= 2 \cdot p_1 + 1 \cdot p_2 + (-3) \cdot p_3 & z_2 &= 2 \cdot 2 + 1 \cdot (-5) + (-3) \cdot 1 = -4 \\
 p_3 &= 0 \cdot p_1 + 0 \cdot p_2 + 1 \cdot p_3 & z_3 &= 0 \cdot 2 + 0 \cdot (-5) + 1 \cdot 1 = 1 \\
 p_4 &= (-2) \cdot p_1 + 1 \cdot p_2 + 3 \cdot p_3 & z_4 &= 0 \cdot 2 + 1 \cdot (-5) + 0 \cdot 1 = -5 \\
 p_5 &= 1 \cdot p_1 + (-4) \cdot p_2 + 2 \cdot p_3 & z_5 &= (-7) \cdot 2 + (-4) \cdot (-5) + 14 \cdot 1 = 20
 \end{aligned}$$

であり、 $z_i - c_i$  を計算すれば

$$z_1 - c_1 = 0, \quad z_2 - c_2 = -3, \quad z_3 - c_3 = 0, \quad z_4 - c_4 = 0, \quad z_5 - c_5 = -2$$

である。

$$b = 12p_1 + p_3 + 3p_4$$

であって、 $z_i - c_i$  の値が全て 0 以下なので、定理 3.3 より実行可能基底解

$$\begin{pmatrix} 12 \\ 0 \\ 1 \\ 3 \\ 0 \end{pmatrix}$$

は最適解であって、最適値は  $z = 10$  である。

ここまでの操作を [シンプレックスタブロー](#) と呼ばれる次のような表でまとめるとわかりやすい。

	基底	$c_i$	$p_1$	$p_2$	$p_3$	$p_4$	$p_5$	b	$\varepsilon$
	$p_1$	2	1	0	0	-2	1	6	$-3 = \frac{6}{-2}$
$\Leftarrow$	$p_2$	-1	0	1	0	1	-4	3	$3 = \frac{3}{1}$
	$p_3$	1	0	0	1	3	2	10	$\frac{10}{3}$
	$z_i - c_i$		0	0	0	3	-14		
	$p_1$	2	1	2	0	0	-7	12	
	$p_4$	-5	0	1	0	1	-4	3	
	$p_3$	1	0	-3	1	0	14	1	
	$z_i - c_i$		0	-3	0	0	-2		

上の表の見方を説明しておこう。

- (1) まず, あらかじめ与えた実行可能基底解を与える基底変数  $x_1, x_2, x_3$  に対応する列ベクトル  $p_1, p_2, p_3$  を左側に書く.
- (2) 次に  $p_1, p_2, \dots, p_5, b$  を  $p_1, p_2, p_3$  の一次結合で表して, その係数を並べる.
- (3) 非基底変数  $x_4, x_5$  のうち, 基底変数として取り入れたいものを選ぶ. 今の場合は  $x_4$  なので  $p_4$  と  $b$  の列に注目し, 行ごとに  $\varepsilon = \frac{b \text{ の成分}}{p_4 \text{ の成分}}$  を計算して  $\varepsilon$  の列に書き込む.
- (4)  $\varepsilon$  の値のうち, **正の数で最小なもの** をひとつ選び, その行に対応するベクトルを基底から外す. 今の場合は  $\varepsilon = 3$  で  $p_2$  を外す. 外すベクトルの前に  $\Leftarrow$  と書く.
- (5) 入れたい基底  $p_4$  と外したい基底  $p_2$  に注目して, 「 $p_4$  の列が,  $p_2$  のあった行が 1, 他が 0」となるように, タブローに対して行基本変形をする.
- (6) これらを  $z - c_i \leq 0$  となるまで繰り返す.

**レポート 3-2** 次の LP 問題を解け.

$$\begin{array}{ll}
 \text{Minimize} & z = x_2 - 3x_3 + 2x_5 \\
 \text{Subject to} & x_1 + 3x_2 - x_3 + 2x_5 = 7 \\
 & -2x_2 + 4x_3 + x_4 = 12 \\
 & -4x_2 + 3x_3 + 8x_5 + x_6 = 10 \\
 & x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 \geq 0
 \end{array}$$